

ヤングケアラー実態把握調査結果について

本市におけるヤングケアラーの実態を把握し必要な支援策を検討するための基礎資料とする。

(実施方法) インターネットにて説明動画を視聴後、GIGAスクール端末などにて回答
 (調査期間) 令和4年10月24日～11月18日

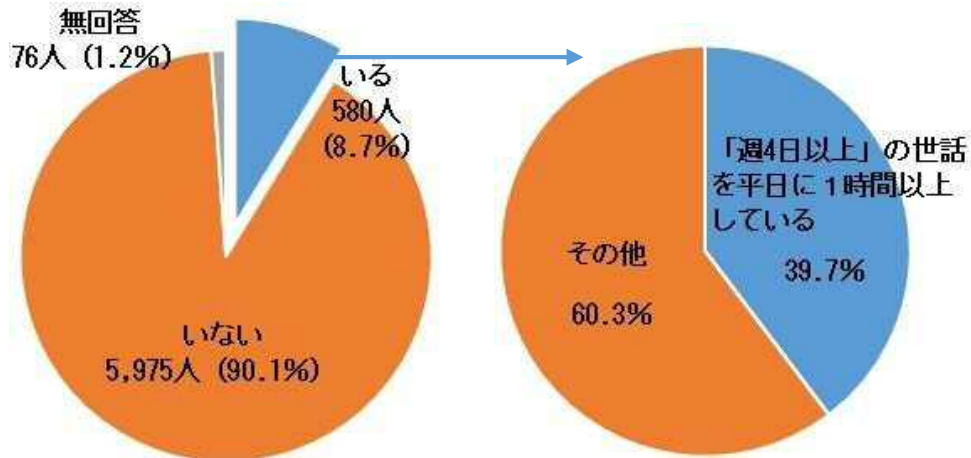
調査対象	小学生調査	中高生調査	教員・養護教諭調査
対象者数	9,926人	15,283人	2,666人
回収数	6,631人 (66.8%)	4,385人 (28.7%)	1,109人 (41.6%)

調査結果①

- 世話をしている家族がいると回答したのは小学生8.7%、中高生5.4% (全体7.4%)
- このうち「週に4日以上」の世話を平日に1時間以上しているのは小学生39.7%、中高生46.4%
- 調査全体では過度な世話をしている可能性がある小学生は3.5%、中高生2.5% (全体3.1%)

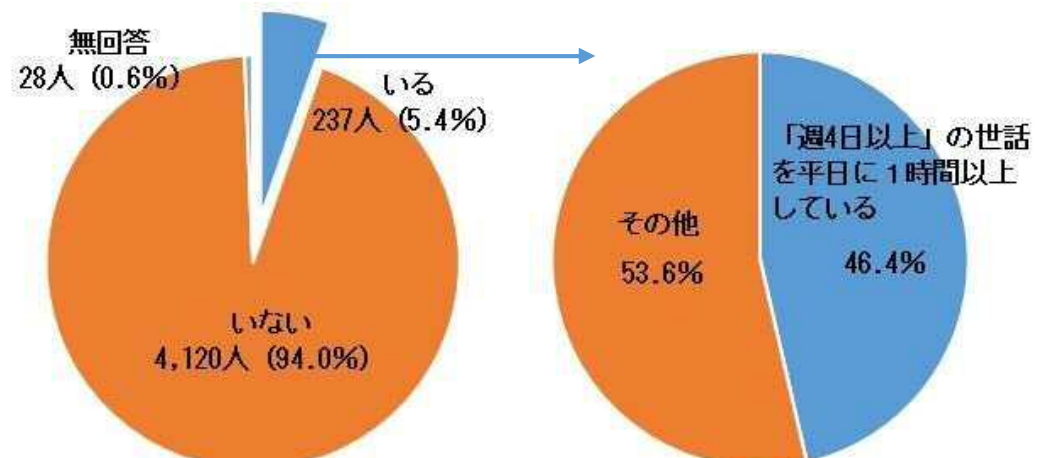
[小学生]

家族の中で世話をしている人がいるか



[中高生]

家族の中で世話をしている人がいるか



調査結果②

- 実際に行っているケアの内容は身体的なケアを担っている場合が多い
- 希望するサポートとして自分の代わりに家事や世話をしてもらい、自由な時間を作り勉強をしたいと考えている子どもが多い

実際の世話の内容（複数回答）

ケアの内容	人数
きょうだいの世話	257人
家事	162人
身の回りの世話	80人
気持ちのケア	60人
言葉やコミュニケーションの世話	53人

あったらいいと思うサポート（複数回答）

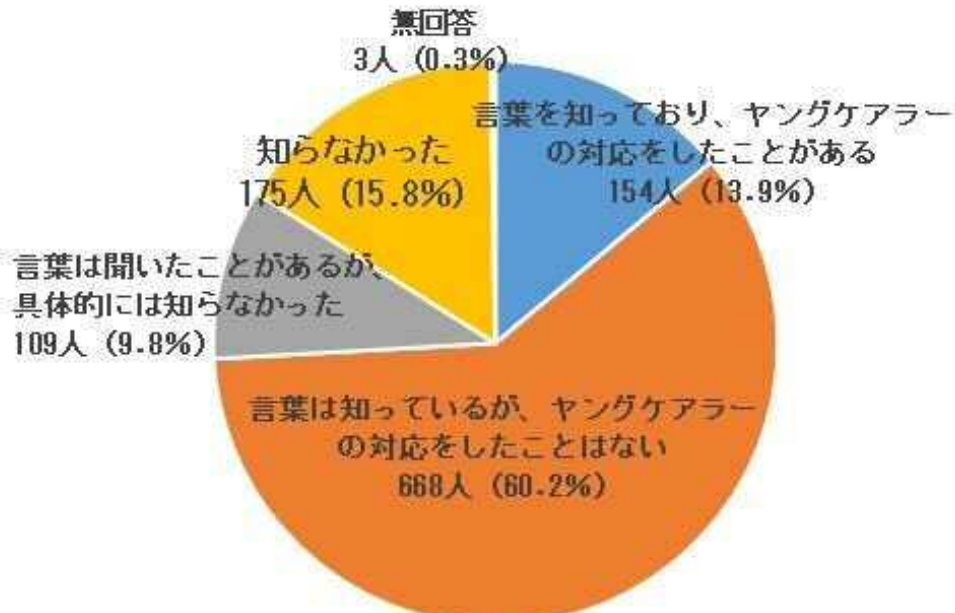
あったらいいと思うサポート	人数
宿題や勉強の手助け	89人
自分の代わりに家事や世話をしてくれる人	88人
自分の自由時間が増えるような手助け	67人
信頼して見守ってくれる大人がいる	62人
家族の病気が悪くなった時など、困った時に話せる人や場所	53人
わからない	31人
特にない	109人

調査結果考察

- ヤングケアラー支援として現在実施している「家事援助」は効果的である
- 世話される方に対する身体介護や支援を充実させることによりヤングケアラーの負担軽減につながる
- 心理的サポートや進路相談、困りごとへの相談ができる環境の整備を拡充することが重要

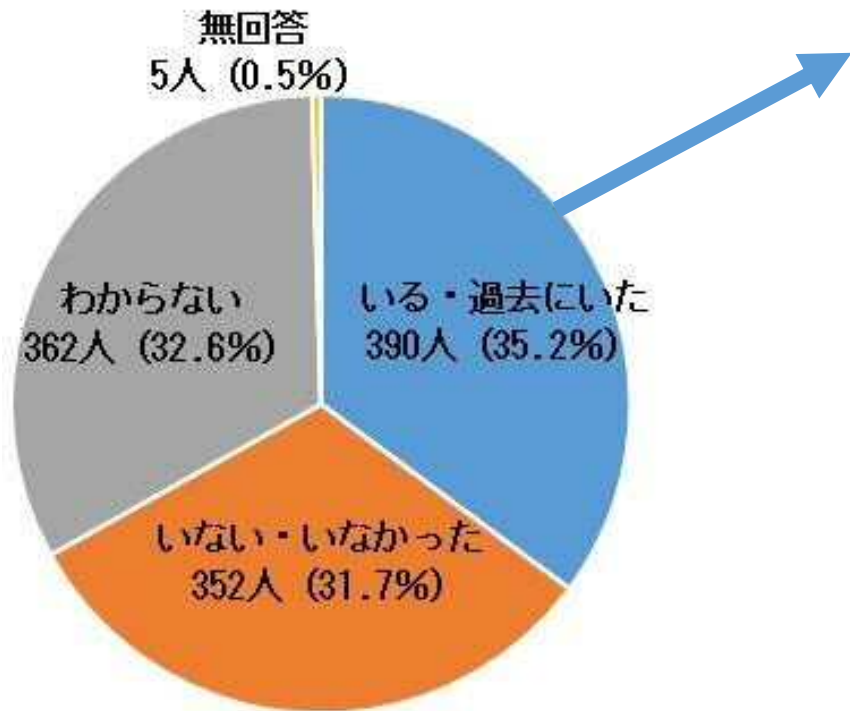
調査結果③ 教員・養護教諭調査

ヤングケアラーを知っていたか



- 「ヤングケアラーという言葉を知っている」と回答したのは、74.1%。
- ヤングケアラーの疑いがある児童・生徒が過去も含め、いたと回答したのは、35.2%。

ヤングケアラーはいますか（過去も含む）



ヤングケアラーと思われる児童・生徒の状況（複数回答）

	人数
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	225人
学校を休みがち	221人
遅刻や早退が多い	194人
学力が低下している	189人
宿題や持ち物の忘れ物が多い	188人
身だしなみが整っていない	153人
精神的な不安定さがある	149人
学校に必要なものを用意してもらっていない	136人
校納金が遅れる、未払い	129人

今後の支援の在り方について

約半数が望んでいるサポートが特になかったり、わからないと答えていることから、支援に関する情報提供やヤングケアラーに関わる啓発を進めることで、ヤングケアラー自身に助けを求めてもらうことが重要

相談できる人がいない割合は約半数

周知・啓発

相談体制の充実

普段行っている世話は家事や身の回りの世話が中心
望んでいるサポートは自分が行っている世話の代行

世話を日常的に行うことでの影響については、精神的ストレスを感じている割合が高い

ヤングケアラーと思われる子どもは少なからず、学校生活に影響をもたらしていることから、学校生活に乱れが生じている子どもについてはヤングケアラーの可能性も含めた視点で支援をすることが必要である

経済的支援を望んでいるヤングケアラーは、中学生で14.0%
高校生では20.0%

家事支援

ショートステイ

学校連携

応援金支給